

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 31日現在

機関番号：25406

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22653043

研究課題名（和文） 広島神楽の継承・興隆と地域の経済発展にむけた地域戦略と運営

研究課題名（英文） A development strategy and management of the local community:  
The big innovations of the KAGURA of Hiroshima (a traditional sacred  
dance change community.

### 研究代表者

赤岡 功 (AKAOKA ISAO)

県立広島大学・学長

研究者番号：10025190

研究成果の概要（和文）：広島では、伝統墨守のリーダーの批判をバネに、伝統神楽の創造的破壊が果敢に行われ、それが大衆の圧倒的支持を集めた。「神楽の競演会」、「神楽の協演会」の場が、各神楽団間の競争と学びを促進し、伝統の継承と、持続的革新を導き、神楽は、若者も惹きつけるものとして再生した。若者は、先輩に神楽をならう必要があり、年配者への尊敬が増し、良き地域生活の復活が見られる。この地域資源神楽の研究成果を生かして、日本地域資源開発経営学会を創立した。

研究成果の概要（英文）：In Hiroshima, the old Kagura (a traditional sacred dance of Japan) leaders followed the tradition strongly. It brought the destructive creation in traditional Kagura by young players. And this new Kagura became very popular, and old Kagura too got active again. These changes were promoted by interactive learning through Kagura contests and many Kagura innovations were introduced. The Kagura became very popular to the youth who had been indifferent to the Kagura. It became necessary for the young Kagura players to learn from old people. They came to respect old people again. Now in Hiroshima, the good communities which there were in old days are beginning to appear again. Based on these results of research, we founded a national-scale new study society for the development strategy and management of the local community by Kagura.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	0	1,000,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	510,000	3,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：広島神楽・交互作用革新・固有文化・

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

## 1. 研究開始当初の背景

経済のグローバル化の下、地方の競争優位が低下し、産業・経済が衰退して、人口の都市への移動がおこり、地方の過疎化・高齢化も進展した。それにともない、各地方で生まれ、伝承されてきた地域の固有文化の多くが衰微し、消滅の危機に瀕している。それらには貴重なものも少なくない。そのため、国や自治体が支援し、保存会などが結成されている例は大変多い。

しかし、地域固有文化が地域のなかで生き生きと継承されているというよりも、心ある人々の献身的努力で細々ながら現在は保存されているのが現状で、将来の展望が描けない場合が多く、現代社会の大きな問題となっている。

しかも、このような状況は、日本の各地だけではなく、グローバル化の波に洗われ、懐かしく美しい地域の安定した社会が、大きく変容している世界の多くの地域で見られることである。

ところが、広島では、新しい神楽が登場し、多くの支持を集め、伝統的文化の継承と充実した地域生活の維持の可能性が視野に入るようになってきた。もとより、地方の経済社会の衰微をもたらす時代の流れは強く、広島の新しい神楽をもってしても、なお困難な点は多く大きい。

そこで、地域固有文化の継承と発展を考える上で、広島の新しい神楽の展開を調査研究する意義は大きいと考えられる。

## 2. 研究の目的

日本の多くの地域で、かつては盛んであった伝統的神楽が衰微し、消滅の虞さえある。ところが、広島では高額の入場料の神楽の上演に数千人の観衆が集まり、人口の少ない中山間地のなかには神楽で賑わいを回復しつつあるところも出てきている。

なぜ広島でこのような現象が起こったかを調査研究することで、衰滅の危機に瀕している多くの地域固有文化の確かな継承と発展をもたらす要因を明らかにしたいというのが当初の第一の基本的目的であった。

第二に、地域固有文化の再生が行われると、活力を失いつつある中山間地の賑わいを回復し、かつての良きコミュニティも再生できる可能性があり、この研究は大きな意義があると考えた。

実際、この研究を企画するころには、広島神楽は若者の間にもファンを獲得しつつあり、多くはないが、神楽団にはいる若者も出始めていた。そして、神楽をしたいために、地元就職をしたり、都会に勤めても神楽の

練習に長時間かけて地元に通ったりする者も現れていた。

## 3. 研究の方法

(1) 既存の神楽研究を、拡張した経営学から検討し、広島神楽の隆盛をもたらした要因をあきらかにしようとした。

(2) そのとき、従来の経営学のように、個体の経営体を対象とはせず、「組織間の関係を、分析対象の組織（焦点組織）から取り上げるといふモデル（組織セットモデルと呼ばれる）」を採用した。各神楽団は、それぞれ強弱・広狭を異にする各種組織の集合（組織セット）の経営により、神楽というプロダクトを開発し、生産し、品質管理をして、観衆に届けている。このとき、時代が変われば、ドラスティックなイノベーションは避けられない。時代に遅れれば多くの関心を集められないからである。

(3) しかし、神楽は地域の伝統的固有文化であり、その伝統的固有性を継承を求められるという制約条件がある。

上の理論モデルで、広島神楽をみると、既存のアンケート調査、神楽研究文献は、観点を変えて見直すことになるが、大変有益なファクトや見方が得られるので、研究会およびインタビューにより意見交換を行った。

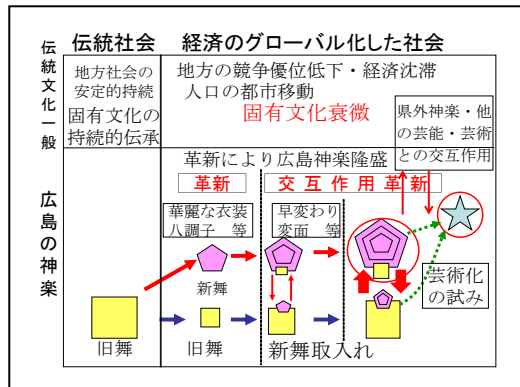
また、研究組織の構成に工夫を加えた。研究分担者や研究協力者に、実際に神楽の革新を行っている研究者（伴谷晃二：オーケストラと神楽の融合）、演劇の作者・演出家（草野旦：宝塚歌劇演出家）、また、祭り（YOSAKOI ソーラン）の創設者に、研究の当事者としての関与をもとめ、これに、経営学、経済学、会計学、社会学の研究者を加えて研究チームを組織した。さらに、神楽団をもつ高校の教員、自治体の職員の密接な協力を得られる組織とした。

聞き取り調査では、広島神楽に創造的破壊を導入した当事者とその関係者から質の高い情報が継続的に得られたことが大きい。

さらに、2年間の研究成果を踏まえ、研究期間の3年目第一四半期の終わりには、広島神楽を経営学的に考え、かつそれを他の地域資源の開発経営に拡張する学会、日本地域資源開発経営学会を創設し、全国大会、広島部会を開催した。これにより、多様な多くの人々の情報が集約される条件が整った。

## 4. 研究成果

研究成果の第1は、なぜ地域固有の文化が衰微しがちであるときに、広島神楽は隆盛をみたかを、下図のように明らかにし確認した



ことである。

広島では、伝統神楽（旧舞：四角で表記）に破壊的といえる大革新（五角形で表記）を行い、多くの人の支持を得た。その後も革新を継続（二重・三重の五角形）して、さらに隆盛を迎えた。

当初は伝統を重視し、革新に背をむけていた神楽団の中にも、新神楽（新舞）の革新の成功をみて、革新を一部取り入れる例がでてきており、旧神楽への注目も高まっている。こうした革新の相互学習・導入は、神楽の競演会や協演会の場で促進される。神楽は、神社や集会所で演じられるだけでなく、都市の大舞台（五角形を囲む円で表記）で演じられるようになり、この形態の神楽が広島では隆盛を見、東京の大舞台でも演じられるようになっている。そして、さらに、芸術性（星型で表記）を深める神楽も現れてきている。

第二は、広島で神楽が隆盛を迎えたため、若者たちの間で神楽に関心をもつものが増え、地域の活性化に力を発揮し始めている。

高校に神楽団をもつところが増え、当研究会の助言もあり、高校生の神楽甲子園が一昨年始まり、今年は3回目の大会が予定されている。若者は、体力の必要な神楽のため、健康的な生活をし、神楽を教えてもらう年配者を尊敬し、年配者と若者の関係がよくなっている。

神楽をしたいため地元就職したり、都会から地元で神楽練習に通ったりする者も現れている。

神楽の面、小道具、衣装等の需要が増え、神楽グッズの販売もあり、観光だけでなく、神楽関連産業が生まれ始めている。

そして、かつての安定的な故郷のよき社会が再生の可能性を見せている。

第三は、本研究の実践的成果として、神楽ばかりでなく、地域の伝統的固有文化、そして広く地域固有の資源へ人々の関心が高まり、その動きにより、日本地域資源開発経営学会が2012年7月7日に設立されたことである。北海道、北陸、関東、東海、近畿、中国など全国で132名の会員が活動を開始しており、広島神楽研究の小さな研究会が

いまや、全国学会を生み、大きな研究の流れが形成された。

第四、研究の範囲は、神楽など地域固有の文化にとどまらず、さらに、地域固有の自然、動植物等々、地域の宝に対象を広げ、地域の活性化を研究する経営系の学会としての発展の方向をみせてきている。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 李在鎬、平野実「自動車メーカー間連携経営力におけるプーリングとラーニング」『実践経営』(50)、2013.8 掲載予定、査読あり。
- ② 平野実「三星電子のグローバル・オープン・ビジネスモデル」『県立広島大学・経営情報学部論集』(4)、2012、査読なし、151-165。
- ③ 高崎義幸「『広島神楽』の伝承過程と興隆に関する社会学的研究」広島修大論集(森川泉教授退職記念号)、査読なし、53(1)2012.9、265-279。

〔書物収録論文〕（計2件）

- ① 赤岡功「日本企業の戦略と組織間関係—組織セット戦略」上林憲雄編『変貌する日本経営』中央経済社、2013.2、125-142。
- ② 伴谷晃二「伴谷晃二作曲・企画構成<”オロチ”~火と水への讃歌~神楽とオーケストラのために—創作過程についての一考察—」『新モーツアルティアーナ海老澤敏先生傘寿記念論文集』739p 音楽の友社、(所収) 2011 pp.692-704。

〔学会発表〕（計5件）

- ① 赤岡功・永吉玲美・西岡和恵・田淵桂子・崔俊・赤岡広周・高崎義幸・平野実「広島にみる新神楽と伝統神楽の交互作用と地域人材の育成・仕事口開発—地域資源開発経営学にむけた詩論—」日本労務学会第42回全国大会、2012年7月15日、和歌山大学。
- ② 伴谷晃二「”オロチ”~火と水への讃歌~神楽とオーケストラのために」2012年7月7日、日本地域資源開発経営学会、グランドプリンスホテル広島。
- ③ 赤岡功「地域資源開発経営学にむけて—ヒロシマ・カグラ、そして世界の歌と舞と平和の祈り—」日本地域資源開発経営学会 2012年7月7日、グランドプリンスホテル広島。
- ④ 赤岡功・永吉玲美・西岡和恵・崔俊・赤岡広周・平野実「広島神楽の隆盛をもたらしたものと地域経済活性化」日本労務学会関西部会 2012年3月2日、県立広島大学広島キャンパス。

- ⑤ 赤岡広周「ヒューマン・エラーと組織間関係—サービス組織の事例分析」日本情報経営学会第62回全国大会、神戸大学六甲台キャンパス、2011年7月2日。

〔図書〕(計1件)

藤井 秀樹編『非営利組織におけるアカウントビリティ指向の業績評価とガバナンスの包括的フレームワーク』非営利法人研究学会刊、2011、112。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

赤岡 功 (AKAOKA ISAO)  
県立広島大学・公私立大学の部局等・その他  
研究者番号：10025190

### (2) 研究分担者

平野 実 (HIRANO MINORU)  
県立広島大学・経営情報学部・教授  
研究者番号：00405507

伴谷 晃二 (TOMOTANI KOJI)  
エリザベト音楽大学・音楽学部・教授  
研究者番号：40289244

日置 弘一郎 (HIOKI KOICHIRO)  
京都大学・経営学研究科・教授  
研究者番号：70114022

小島 専孝 (KOJIMA HIROTAKA)  
京都大学・経済学研究科(研究院)・教授  
研究者番号：20225436

藤井 秀樹 (FUJII HIDEKI)  
京都大学・経済学研究科(研究院)・教授  
80173392

崔 俊 (CHE JUN)  
星城大学・経営学部・教授  
研究者番号：50387908

赤岡 広周 (AKAOKA HIROCHIKA)  
徳山大学・経済学部・講師  
研究者番号：70571074

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

高橋義幸(TAKAHASHI YOSHIYUKI)  
日本地域資源開発経営学会・理事